



# 大森二中だより

令和4年度 大森二中の合言葉「思いやり」  
スローガン 笑顔満開 いつも心に太陽を！

令和4年度  
進路説明会号  
大森第二中学校  
校長 成清敏治  
電話 3762-6456

## 全員で困難を乗り越える生き方こそ、真の進路指導

今後の社会は不確定な時代、変化が激しい時代です。そのような時代に必要な力は、当然学力も大事ですが、それ以上に「非認知能力」が必要だと言われています。どのような力かということ、目に見える学力ではなく、目に見えない力…例えばあいさつや礼儀、言葉遣いや忍耐力、そして人とのコミュニケーション力など、人間として関係性が円滑にできる力が重要だと言われています。

進路選択は単に高校入試を合格するという話だけではありません。次のステップは、ここにいるほぼ全員が上級学校を選択する1年間になると思われますが、単に高校選びをするわけでもありません。長い人生の第一歩。人生100年時代と言われる今。その踏み出し方が大事です。上級学校合格だけが目的なら、この1年は勉強さえしていればいい。中学校も入試の手段だと考えれば、3学期は来なくてもよい。身勝手な考え方がコロナ禍の影響か、最近増えてきたように思います。中学校生活最後の1年間は進路選択だけが目的ではありません。一生に一度しかない中学校時代、最後の瞬間まで全員の総合力で入試に臨み、励まし声をかけあって頑張る、その深い人間性のつながりが中学校生活の目的です。入試の前に学校を休んで自宅や塾で勉強する人がいますが、それは大きな間違いです。大変な時こそ、集団の力が必要です。人間はそうやってこの地球上に出現してから困難を乗り越えてきました。コロナ禍や受験勉強は、ある意味で人間の分断につながります。仲間の力を借りて荒波に臨んでいくほうが自分の可能性を大きく拓くことにつながることを確信してください。現実的な話をすると、どこの上級学校に行ったかは長い人生から見ればほとんど関係ありません。第1志望に推薦で合格したけれど、残念ながら途中で高校を中退して、人生の道を踏み外して犯罪に手を染めてしまった子もいます。逆に第1志望の高校が不合格だったけれど、そこから猛勉強して高校を成績1番で卒業し、国際連合の仕事をしながら世界を飛び回っている子もいます。だから何が大事かということ、「生き方」です。

いい加減な姿勢で上級学校に行けば、中退したり、学習についていけず留年したり、人生のつまずきになることも多い。何を目標にして頑張るのか、上級学校で何に打ち込みたいのか、どういう自分になりたいのか、どんな生き方をしたいのか…そんなことをじっくり考えて、上級学校を選んでほしいと願っています。

だからと言って、来年の進路選択を疎かにしてはいけません。「今を頑張れない人間に未来を語る資格はない」これは、ある有名なサッカー選手の言葉です。進路選択は、3年生になって頑張るものではなく、今から地道にスタートすべきものです。積み重ねを大事にして、将来にとって良い進路選択をしてください。今から、ここからが大事です。だらしない生き方、周囲のことを見ようとしない自分勝手な生き方はいつか損をする。損をしたときに気付いてもその時は遅い。人生の致命傷にもなってしまいます。残りの中学校生活をここにいる仲間全員で、困難に立ち向かって乗り越えていってください。

(3月2日 2年進路説明会)

